

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づいて毎年、事業計画を立案し、それに従って運営している。理念は毎日唱和している。	「利用者様がもてる力を発揮して、自信と幸福を感じられる生活を支援します。」から始まる6項目の法人の理念を基に、本人や家族の視点でいかにその人らしく暮らせるか事業所独自の2つの理念を掲げている。常に入居者の立場に立って、また自分の家族と考え接するという主旨で朝と午後に唱和し実践につなげている。職員もサービス提供中に迷った時にはホームの理念に立ち返り、入居者に接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・畑作りなどに地域の方も関わって頂いている ・地域の中にある商店への買い物や回覧板廻しに利用者様も同行して頂き、交流を図っている ・地域のボランティアの方々が定期的に来所され、利用者様と一緒に時間を過ごして下さる。	事業所の中だけで暮らしが完結しないよう、日常的に地域との関係を維持できるように取り組んでいる。地区神社の祭礼の長持ち行列に参加したり、祭り際には事業所の前で地域の方が踊りを披露されている。入居者の作品を地区文化祭へ出品したり、ボランティアの方々に複合施設の創立記念式典で感謝状を授与するなど、地域との交流が継続して行われている。同じ地域に法人の特別養護老人ホームが今年7月にオープンし、地域性も考えて、支援状態に合わせて「安心してすごせる」とこと介護予防を目的に、同じ町内に地域のサロン「さんさんサロン」を開設し、利用者の受け入れ口として始められた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1度、地域サロンに職員が参加する際に、認知症について質問を受けたり、予防につながる体操・ゲームなどを一緒に行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、利用者・地域の方・第三者委員・行政担当者等に参加して頂き、そこで出された意見をその都度検討し、施設の運営に反映している。	年6回開催されており、入居者の状況や事故報告、次月度以降の予定、法人の方針などを説明している。家族には具体例を挙げ、介助の助言なども行なっている。会議の場で町からの依頼があり「支え合いマップ」作りにも協力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への行政職員の参加の他、受診事故・入退居の連絡等をその都度行っている	町の紹介から地域サロンへ講師依頼があり参加したり、他の地区からの勉強会の依頼にも答えている。入居者の介護認定更新の際には町の各支所の職員がホームに訪し本人や家族と面談し、職員からも情報提供することがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠については、見守りのできる職員が1ユニットに2人以上の時間帯は、施錠を行わないこととしている。	職員は法人研修や会議などで身体拘束の弊害について正しく理解し、拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠はしておらず自由に入出りできる。日常のちょっとした態度や言葉が入居者にとっては不穏の原因になるので、職員も穏やかな気持ちで接するよう常に心がけている。	

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の身体に外傷等発見した場合は、原因の明・不明に関わらず、家族・法人への報告と職員間での共有を行う		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の利用者様については身元引受人が確定されていることもあり、活用の機会はないが、今後の必要性を見据え、職員の制度への理解を高めるため、研修に組み込んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明と、入所時には入所オリエンテーションを行い、十分理解して頂けるよう説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ケアプラン提示の際にご本人及び家族の意向を伺いケアプランに盛り込んでいる ・事業計画に年2回の満足度調査を組み込み、意見を運営に反映させるようにしている。	通常の面会時や運営推進会議、行事の折に家族の意向や要望を聞き取り、日頃のサービスやケアプランに反映させている。毎年年末に忘年会を兼ねた懇談会も開催しており、本人と家族、家族と職員の意思疎通の場となっている。年2回、満足度調査も行い、きめ細かな支援に活かしている。月1回入居者の写真入りで綴った近況報告やホームだよりが家族の元へ届けられ、家族とのコミュニケーションにも役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議及びユニット会議にて意見を取り上げている 個々の面接時や日常業務の中でもリーダー・管理者に対して率直に意見を出せる雰囲気作りをしている	グループホームの会議とユニット会議が交互に隔月で開催され、意見交換や情報交換をしている。法人全体として人事考課制度が導入されており、年間目標としての「チャレンジシート」を職員が作成している。年2回個人面談も実施されており、提案やアイデアなどを伝える場となっている。出された提案等は運営に取り入れ反映させており、それによって職員との信頼関係も厚いものになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々に目標を持って働けるようにチャレンジシートの活用・きらきらグラフ等の取り組みを行っている。賞与査定・職員表彰の他、会議や面接時に把握した職員の意見をもとに、勤務体制や、休憩室の整備など、職場環境等、常時見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が法人内外の研修を均等に受けることができるよう、その都度勤務体制を考慮し、参加できなかった職員も内容を共有できるよう、研修報告書の作成と、会議等での報告を行っている。資格取得に向けた支援も行っている。		

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス向上にむけて、研修や会議を通じて、同業者との情報共有や意見交換を積極的に行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の際、可能な限りご本人から不安に思っていることや要望をお聞きし、その解消を図るケアを中心に、まずはグループホームでの生活に慣れていただくことに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み・契約時及び入所オリエンテーション時に困っていることや、要望等をお聞きし、できる限り解決できるよう対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	過去に必要と判断し、訪問看護を利用したケースもあった 今後も必要な支援を判断していく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の力を出来る限り発揮して頂くような場面を個々の利用者様において作れるよう努めている また、感謝の言葉やねぎらいの言葉を忘れないようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の体調や様子に変化があった場合はすぐご家族に連絡し対応を一緒に検討して頂いている ケアプラン提示の際にも意見を伺い、共に考えて頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人や家族の拒否がなければ友人・知人の面会は自由にして頂いている また、なじみの床屋へ散髪に行かれたり、外出の際に知人を訪ねる方もいらっしゃる	自宅の近所の方や昔の仕事仲間などの面会がある。家族付き添いで馴染みの美容院や床屋に行かれる入居者もいるが、家族の方が居室で散髪されることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごす事が好きな利用者様もいらっしゃるなので、その時間は尊重しつつ、食事の他、全体レクやお茶の時間には声かけにてホールへ来て頂いている。その方々も他利用者様との会話は成立し、コミュニケーションは良好である		

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援の要請があれば対応している。 また、法人の他施設を利用した場合に情報提供、情報交換をし、関係を断ち切らないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のお一人お一人の「つぶやき」をケアに反映するように努めている 言葉による確認が難しい場合は行動・表情などから判断している	入居前の本人の生活歴などをプロフィール表で分析し職員が要望を聞き取る時に参考にしている。 入浴や散歩、食事など、入居者の希望に沿ったサービスの提供に努めている。役割や楽しみごとの場面も意向に沿っているか検討し、入居者が生き生きと暮らせるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に担当ケアマネとご家族より情報を頂いている。特に、ご家族にはご本人の生まれてから現在までの年代別のプロフィール等を記入して頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をつける中で情報を申し送り共有する また、カンファレンスにおいて現状の把握・分析を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の様子をおたよりでお伝えし、お変わりのあった場合にはご家族に連絡し、利用者様の現在の状態を把握して頂き、面会に来られた際・ケアプラン提示の際意見を伺っている 必要時、主治医・担当ケアマネに助言を求めている	本人や家族の要望を聞き介護計画を作成し支援に反映させている。入居者一人ひとりの担当職員から情報や意見を聞き3ヶ月に一度見直しを行っている。心身の状態に変化が見られた時には随時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・ケアプラン・モニタリングが連動しているシステムを活用し、ケアプランの見直し等を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のご希望に出来るだけ添うよう、職員間で柔軟な対応を心がけ、ご家族の要望にも出来る限り添えるよう努めている。		

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民やボランティアの方々・施設内の他職種の職員等がグループホームでの利用者様の生活を多方面で支えて下さっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診されている利用者様と協力医療機関による往診を受けている利用者様とがある	かかりつけ医の定期受診は家族が入居者の状態を把握する大切な機会であるため原則的には家族同行としていただいている。家族が付き添えない時には臨機応変に職員で対応している。協力医との連携によりホームへの医師・歯科医師の往診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内のデイサービスの看護師との連携や、協力医療機関の看護師の助言をもとに、受診等につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な限り、ご家族が医師により治療方針等を説明される場に同席させて頂き、入院中は病棟の看護師と連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に文書にて重度化した場合の方針についてご家族に確認している	法人の勉強会で「重度化・看取り」についての研修があり、継続的に治療・看護等を必要とする状態が考えられる場合には、本人や家族、かかりつけ医との話し合いを行い意思統一し、その後の支援方法を考えるようにしている。開設以来数名の方の看取りも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、マニュアルをもとに、会議などで確認を行っている また、毎年、職員に対して救急救命講習を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災その他を想定した避難訓練を行うこととしている また、地域の自治会と防災協定を結んでおり、施設での年に1度の避難訓練にも参加して頂いている	地元消防団や地区の方も参加し、併設されているデイサービスセンターと合同で年2回避難訓練を実施している他、ホーム独自に毎月テーマを定めたミニ訓練も行っている。スプリンクラー、火災報知機が完備され、地域との連携もできている。非常時に備え食料品などの備蓄も3日間分ほど確保されている。	

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけ、対応について、日々の申し送りやカンファレンスにおいて振り返り、リーダーや管理者の指導のもと統一した対応が出来るようにしている	姓や名に「さん」付けで、親しみを込めた中にも敬意を払った呼びかけが行なわれている。法人として「プライバシーマーク」の研修が行われ、職員の意識向上に努めている。日頃の介護日誌等もパソコンで入力するようになり事務的作業の負担軽減が図られているがパスワード等で情報の管理は確実にされている。ホームの「まめだ屋だより」を地区に回覧しており、写真の掲載等についても家族から了承を頂く等細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意志・希望を尊重するようにしている。自己主張をされない利用者様に対しては、積極的に職員から働きかけて、意思や希望を確認したり、表情等から推測をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、お一人お一人のペースを尊重するようにし、ご希望があれば、それを優先するよう、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は、ご自宅やご家族からお好みの物を持って来ていただき、更衣の際、見守りや介助が必要な利用者様には、洋服を選んで頂けるような言葉がけを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際に利用者様の好みを反映させると共に、調理・盛り付け・片付け等できるだけ関わって頂いている	一週間交代で職員が食事作りを担当し、入居者の方々に食べたい物のアンケートを会話の中で聞き取り、近距離にある商店に散歩しながらの買い物に出かけている。毎月寿司の日があり、誕生日には本人の好物がメニューに上ったり、外食を希望する方にも対応している。ホーム西側には畑があり近所のボランティアの協力も得て、キュウリや長ネギ、大根やジャガイモなどが沢山獲れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の食事量・水分量のデータを基に、体調等に合わせて摂取量の調節ができるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立でできる方以外の方には口腔ケアの声かけ、必要な方へは介助を行い、就寝前にはほぼ全員の方に、義歯洗浄の仕上げ磨きや自歯の仕上げ磨き等の口腔ケアを行っている		

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の習慣や性格等を把握し、できるだけ排泄の自立が続けられるよう支援している	入居者の排泄パターンを把握し、自立を目指した取り組みに努めている。夜のトイレ誘導も覚醒していない場合、無理に誘導はせず見守りで対応し、入居者の自尊心に配慮した、さりげない支援に徹している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やしたり、飲食物に便秘解消に効果的なものを取り入れると共に、歩行・体操などに参加して頂いている		
45	(17)	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される方は毎日入浴して頂いている 時間帯は午後～夕食前となっているが、それ以外の時間に実施することもある	殆どの入居者が自立されているが見守りとシャンプーなど一部介助を必要とする方もいる。毎日入浴される方もいる。入浴を拒まれる入居者には入浴したい気持ちを誘うための言葉かけなどを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけでなく、日中もご自由に休んで頂いている テーブルなどに伏して傾眠されている利用者様は声かけ・誘導を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理に際して、段階的に確認する体制を取り誤薬防止に努めている また、服薬後の状態を確認し、医療との連携を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報と日々のご本人の様子や言葉から、ご本人の希望をさぐりケアプランにご本人の張り合いや楽しみごとを盛り込んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周りの散歩や近所への買い物・ドライブなどは、その日の希望に対応している。少し遠方への外出はご家族の協力も頂いたりしながら、あらかじめ外出計画を立て、行っている	「ちょこっとドライブ」と銘打って、近隣の商店に買い物に出かけながら車で一回りし、気分転換をしている。足を伸ばしての外出はお弁当持参でお花見やブドウ狩りに出掛けている。	

グループホームグレイスフル日義

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族の希望がある場合は、現金を所持して頂き、ご自分で支払いや買い物を楽しんで頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話についてはご家族が希望されない場合が多いため、ご本人自ら電話される利用者様は少ない。 手紙については、希望がある場合は支援し、年賀状等はほぼ全員の方に出して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が心地よく過ごせるよう、温度・湿度・明るさ・BGMやテレビの音量に気をつけている また、季節の花を飾ったり、装飾物にも季節感ができるように工夫している	明るく広い食堂兼居間は、天井に向けた間接照明がやさしく、落ち着いた雰囲気を作り出し、居心地の良い場所となっている。入居者がそれぞれお気に入りの場所でくつろぐ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はホールソファで、利用者様同士で話をされたりテレビを観て過ごされることが多い 一人になりたい利用者様は廊下にあるソファで過ごされる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、自宅で使っていたなじみの家具や小物等を持参して頂いている	居室には位牌が置かれ、入居者ご自身が書かれた書の掛け軸なども飾られており、思い思いの暮らしが伝わって、一人ひとりがその人らしく過ごせるように配慮されている。入居者も薬の袋作りや雑巾を縫ったり、予防を兼ねた下肢運動などにも挑んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、共用トイレも、ウォーカーや車イス使用の利用者様にとって十分な広さとなっている		